



只見町の伝統行事 お釈迦様を供養する涅槃会



涅槃会に訪れた親子



はなくそ団子

旧暦の2月15日（今年は新暦で4月2日）、下福井集落の興厳寺では「涅槃会（ねはんえ）」と呼ばれる伝統行事が行われます。この行事は、お釈迦様が入滅（死去）した日にあたり、その供養のためのものです。お寺の中には、お釈迦様の涅槃図（お釈迦様が亡くなった様子を描いた仏画）がかけられ、その前にお赤飯と煮しめ、団子がお供えされます。この団子は、「はなくそ団子」と呼ばれ、字では「花供曾団子」と書きます。花供曾は、仏様への供物を意味する花供御（はなくご）に由来するとされますが、お釈迦様の「鼻くそ」とも言われます。団子は直径1cmほどと小さく、中には塩をまぶして蒸された小粒の豆が一粒入っています。気になるこの団子の味ですが、食べるとほんのりとした塩味と豆の甘味が感じられます。この団子は、魔除けになるほか山に持っていくとマムシに噛まれず、道にも迷わないとされます。涅槃会に訪れるのは基本的に集落の方達ですが、昔は集落外や町外からもたくさんの方が団子をもらいにきたそうです。

只見町ブナセンターからのお知らせ

企画展「アリからクマまで－タネをまく動物」

期間：4月4日(土)～11月30日(月) 場所：ただみ・ブナと川のミュージアム

内容：自ら動くことができない植物は、動物の力を借りてタネを遠くに移動させ、子孫を残してきました。本企画展では、その仕組みなどについて、全国の研究者が解説します。また、大人から子供まで楽しく理解できるよう工夫をしましたので、ぜひ見学にお越しください。

※この広報紙は再生紙を使用しています

※環境にやさしい大豆油インキを使用しています